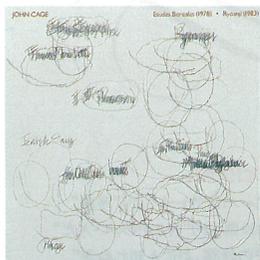




ケージ/プリベアード・ピアノ協奏曲他。高橋悠治、フォス/バッファロー・フィル [米NONESUCH H-71202]。「知る人ぞ知る有名なコンチェルト。これも図形楽譜で書かれていて、演奏者が自分で好きなところを見つけて奏するものです。ケージの偶然性の作品の雰囲気をよく出している曲ですね。」



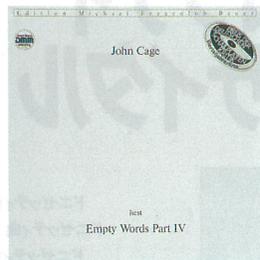
ケージ/エチュード・ボレアレス、リョウアンジ。ウィットティ (vo) バグリス (p, perc) ガンツ (MS) [米MODE MODE1/2]。「リョウアンジ」というのはかなり日本ではポピュラーになってますね。楽器のパートをそれぞれに具体的な意味付けがあり、譜面が視覚的な形を表現しているのが面白いですね。」



〈ケージ/ミュージック・フォー・ネービー (1935-1948)。カースティン (D, プリベアード p, toy, p) [米COLUMBIA CM25819]。鍵盤のための音楽が作曲年代順に並んでいるものです。プリベアード・ピアノのための最初の作品パッカナルや、非常にゆっくり弾かれたドリームの名演奏が印象的です。〉



ケージ/イマジナリー・ランドスケープNo.2, No.3。ハーグ・アンサンブル [不明]「42年のコンピニア・ラジオ放送の音源によるものらしいんですが、このハーグ・アンサンブルの演奏が本当に素晴らしいんですね。異様にカッコいい。ごく最近見つけたものですが、もう手に入るものじゃないでしょう。」



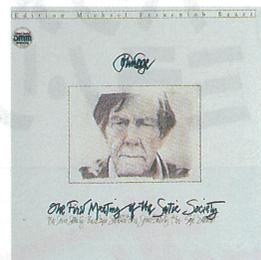
ケージ/エンpty・ワーズ・パートIV。ケージ (vo) [独EDITION MICHAEL FRAUENLOB BAUER MFB003/4]。「これもケージがひたすら朗読をするというもののようですが、何とスタジオ録音です。よく見るとジャケットが、分断された言葉によって書かれたケージの顔の点描になっています。」



ケージ/インディターミナシー。ケージ (朗読) チュードア (music realization) [米 FOLKWAYS FT3704]。「インディターミナシー (不確定性) という文章をケージが朗読して、その後でチュードアがいる音を出しています。このチュードアが凄く演奏をしているんですよ。ケージの声が若いんですね。」



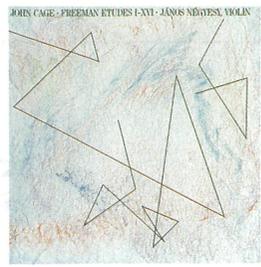
〈ジョン・ケージ・ミーツ・サン・ラ。サン・ラ (eg. syn) ケージ (vo) [米LOVE-MELTDOWN MPA-1]。「ジャケットからして変な1枚です。同じステージで、即興演奏のジャズ・キーボード・プレーヤーのサン・ラの演奏の後に、ケージが奇妙な朗読を延べ続けます。途中たっぶり4、5分の沈黙が入り驚かされます。〉



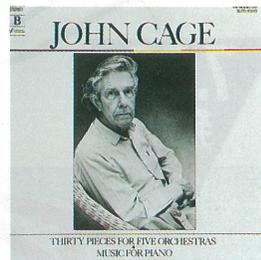
〈ザ・ファースト・ミーティング・オブ・ザ・サティ・ソサエティ〉。ケージ他 (vo) ボナー・アンサンブル。[独EDITION MICHAEL FRAUENLOB BAUER MFB014/5]。「サティ協会ってのはよくわかりませんが、サティの (家具の音楽) なんかを鳴らしてという作品です。したがって意外と静かな曲です。」



〈ジョン・ケージ音楽生活25周年記念アルバム〉。ケージ (p) チュードア (perc) アジェミアン (プリベアード p) 他 [GEORGE AVAKIAN K 08 Y 1499/51]。「記念演奏会のライブ。解説書が素晴らしいです。すべての曲の楽譜の第1頁が付いています。ケージのエッセイ付き私家盤。代表作が作曲順に収められています。」



ケージ/フリーマン・エチュードI-XVI。ネジエシー (vn) [米LOVELY MUSIC VR2051/2]。「フリーマン・エチュード自体はスコープスキーのI-VIまでの録音がありましたが、これは全曲入っています。ジャケットが凄く奇麗でしょう。曲は前衛モノが好きなのが聴き込むタイプのものではないですね。」



ケージ/5つのオーケストラのための30の小品、ミュージック・フォー・ピアノから。エトヴェシウ/サヴァリア交響楽団、イェネイ他 (D) [米HUNGAROTON SLPDI2893]。「前者はオケを5群に分けて、同時に1つの音源からは1つしか楽器が音を出さないという作品です。したがって意外と静かな曲です。」



ケージ/アトラス・エクリプティカリス+ウィンター・ミュージック。ケージ/ザ・ニュー・パフォーマンズ・グループ [米MODE MODE 3/6]。「2曲を同時に演奏しているのですが、ケージの場合混ぜられてもわからないところがありますね (笑)。レコード4枚にわたって静寂が続きます。」



音楽生活二十五周年記念アルバム、インディターミナシー、HPSCHDなど、現在では入手の難しい盤を中心に、九月に傘寿を迎えるジョン・ケージ。その感動と爆笑の狭間に点在する作品群

私のディスクライブラリー

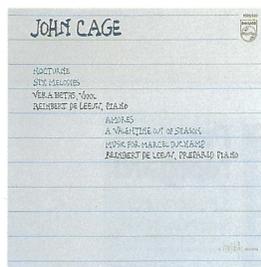
104 川村龍俊さん(28歳) 東京都世田谷区



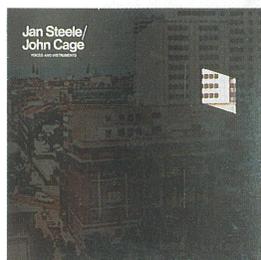
ケージ/クレド・イン・アス、イマジナリー・ランドスケープNo.1他。リーン/アンサンブル・ムジカ・ネガティブア [東芝EMI EAC 80226]。「もし可能ならぜひ買ってください。特にクレド・イン・アス。任意の通俗名曲を打楽器アンサンブルで分解するという大爆笑の曲で、ここでは(新世界)が使われています。」



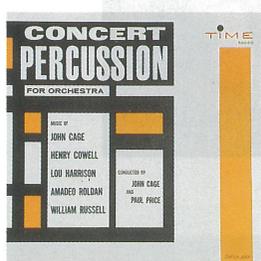
ケージ&ヒラー/HPSCHD。ヴィッシャー、ブルース、チュードア (cemb) [米NONESUCH H-71224]。「こいつはうるさい曲ですよ。レコードにコンピュータのプリントアウトのスコアが一枚限定で付いています。これは聴き手のための楽譜で、最終的な音響に一万通りの可能性があることとなります。」



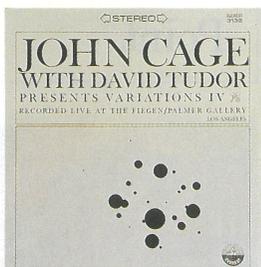
ケージ/ノクターン、6つのメロディ、アモーレス、季節はすれのヴァレンタイン、マルセル・デュジャンのための音楽。ベス (vn) デ・レウ (D) [米PH 9500920]。「これは大好きな一枚。全部ロマンティックな曲で占められています。4、5枚買って友達に送りまくったと言ったもので。すべて確定譜の曲。」



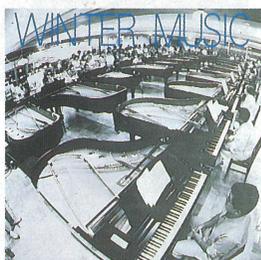
ケージ/エクスペリメンツNo.1, No.2。イン・ア・ランドスケープ他。リチャード・バーナス (p, perc) ロバート・ワイアット (vo) カラ・ブレイ (vo) [英 OBSCURE 5]。「大変ロマンティックな曲が集まっていてお薦めのレコードです。ただケージとはこういう人だよと言うと誤解を招くかもしれませんね。」



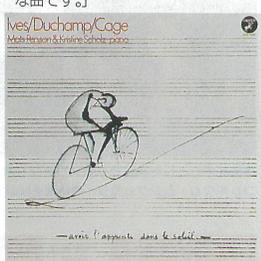
ケージ&ハリソン/タブル・ミュージック、ケージ/アモーレス他。ケージ (指揮, p) プライス (perc) 他 [米TIME58000]。「なぜかサイン入りです。おそらく60年代に来日したケージに当時の持ち主がもらったので買ってしまったのでしょう。これは多分ケージの想像通りの音を出している演奏だと思えます。生きがいですね。」



ケージ/ヴァリエーションIV。ケージ、チュードア (ライヴ・エレクトロニクス) [米EVEREST3132]。「ケージがチュードアと組んだもので、当時の雰囲気がよく出ています。これは既成のレコードやラジオを持ちよって演奏したもので、色々の断片が飛び交うという面白いタイプのもので。」



ケージ/ウィンター・ミュージック他。森録、山下洋輔、山口博史、島田璃見、秋山晃男、松平頼暁他 [日LOCUS SOLUS RECORD LM1575]。「これは爆笑ですよ。ジャケットでわかりますが、ピアノが20台並んでいて、聴いてる人の方が少ないような雰囲気です。一種の図形楽譜によるものですが意外と静かな曲です。」



ケージ・ア・ブック・オブ・ミュージック・フォー・プリベアード・ピアノ他。ベルソン、ショルツ [スウェーデン CAPRICE CAPI226]。「デュシャンの作品のジャケットで買ってしまった。2台のプリベアード・ピアノという比較的珍しい組み合わせ。本を読んでも思考を妨げられないような曲です。」



この埋め込み式のレコード棚は強力!

「川村さんのレコード棚にはロマン派の音楽も多いですね。」
 「実は今CDで凝っているのはシベリウスだったりする (笑)。僕は小澤征爾のコレクターでもあるわけで、いつもケージを聴いているわけじゃないし、ケージでもつまらないものもあります。それでも何の気なしに何かやってみよ、うかとケージを買っちゃ。やる気になれば、ピアノが弾けなくても譜面が読めなくても、できるものはあるんですよ。」
 「とにかくケージは盤を見たらず買ってしまう。外国のレコーディング・リストの類を調べて、片っ端からケージをオーダーしました。もちろんそれで入手できないものも多いから、あとは足で探し回っています。友達にも声をかけて、もし中古レコード屋でケージを見つけたら電話してくれて。やってみるだけやってみた結果、確定譜で書かれたようなものは大半がそろったようです。」
 「不確定性の音楽の場合、実際に演奏した体験があると、レコードを聴く上でも面白さが違ってくるんですよ。」
 「なかには甚だしいものもありましてね、こゝで音があるかないかということだけをコンピュータで計算させて偶然性で曲を作ると。それで譜面を見ると、時間軸のパラメータが載ってて、インクの墨をこぼしたようになってる。あとは何をやってもいいということなんです。」
 「不確定性の音楽の場合、実際に演奏した体験があると、レコードを聴く上でも面白さが違ってくるんですよ。」
 「なかには甚だしいものもありましてね、こゝで音があるかないかということだけをコンピュータで計算させて偶然性で曲を作ると。それで譜面を見ると、時間軸のパラメータが載ってて、インクの墨をこぼしたようになってる。あとは何をやってもいいということなんです。」
 「しかし、聴くほうはまったくの即興と楽譜に決められた操作の中の自由な表現との区別は付きませんよ。」
 「そうですね。ケージが自分で書いても分らないことあると認めてました。じゃあ、何が違うのか。一つはケージが立ち会ったり、自分でやっているものは明らかに他と違うものを持っているということ。ケージの自身にデヴィッド・チュードアってのがいますけど、彼が不確定性の極を行くような曲をやっても、彼の出す音にはその力強さに震え上がるようなものがあるんです。もう一つには、聴いて分らないけれども見れば即興との違いは分かるんです。自分で演奏したからそう思うのかもしれませんが、そういう意味ではレコードを聴く面白さってのはすごく難しい。」
 「川村さんのレコード棚にはロマン派の音楽も多いですね。」